
私は貴方の妹なんです

KIA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私は貴方の妹なんです

【NZコード】

N4125BA

【作者名】

KIA

【あらすじ】

・『黒沢如月』・母さんが旧暦名が好きな為、変な名前だがそれ以外は普通の女子高生。憧れの兄貴『黒沢皐月』が通う響藍学院に晴れて今年から通う事になつた。兄貴やクラスメイトにからかわしながらも周りの濃い性格に初っ端から自分の凡人さに傷付きながらそれなりに充実な高校生活を送つていて。それが一番幸せだつて知つたのはヒグラシが鳴く8月21日の私の誕生日・・・全てが終わって、また全てが始まった日

1節「春の進学」

私の名前は黒沢如月。

今年から、かの有名で人気な響藍学院に通うことになつたのだ！！！
もちろん・・・有名で人気だから倍率も相当あつて、
兄貴である黒沢臥月にスバルタな勉強をしてもらつた。

結果、見事に合格！！

とはいえ・・・学院負けな凡人学生である

「卯月姉～おっはよ～

ねえねえ、響藍の制服どうかな？似合つ？似合つ？？」

トントンと軽い音を立てて、まだ皺もない新品な暗い黄色のブレザーに

丈は膝上より上の普通の学校よりも短い紺のヒラスカート。
ブレザーの下は薄い黄色のワイシャツで、

黒チェック入りの黄色いリボンの真ん中には

響藍学院の紋章である紋章が緑のバッヂに刻まれている。

「おお、いかにも響藍の生徒だね～キサ」

リビングまで下りればカウンター越しから卯月姉が顔をのぞかせながら、

わざとらしくヒューノと口笛を吹く。

この人は黒沢家の長女、黒沢卯月。

一応21歳なんだけど、とても綺麗な顔立ちをしている。
髪はボブな明るい茶髪でいかにも「お姉さん」な人。

私達、兄妹は旧暦名から取った名前。

父さんや母さんが好きつといつもあるけど誕生日とは全然関係ない

兄貴と卯月姉は私を「キサ」と呼ぶ

「もう・・・響藍の学生だつーの...」

つて、あれ？兄貴は？」

ふとりビングの寂しさに勘づく。

それは黒沢家で一番騒がしい長男の卯月がいないからだ

「あんの馬鹿まだ寝ているの！？」

本当に馬鹿だね、いんや元から馬鹿だな。

キサ、悪いけど卯月の馬鹿を起こしに行ってくれ。

姉ちゃんは今料理をして手が離せないから」

「はーい」

なぜか卯月姉はあんまり兄貴の事を好いていない。

まあ問題ばつか起こして卯月姉が、し�ょっちゅう学校に御呼ばれされてるからなのかも。

なぜ母さんや父さんかじやないかといつと、

父さんはとある会社の社長で企画者でもあるからあまり家に帰つては来ない。

母さんは元から体が弱かつたけど、最近体調が悪化してばつかで、

家事は卯月姉が引き受けるつて事で今は入院中。

なので卯月姉が今はお母さんのポジション

髪に指を通しながら下りてきた階段をまた上がり、私と卯月姉の部屋とは反対方面の廊下を駆ける。

四三

一元貴 | ! ! !

ノックしながら呼びかけるが中から応答はない。

息を吸つて深く吐くとまたノックをする

コンコン

——あ——で——を——！——寝——て——ん——の——お——？——？——？——？——？——？——

この様子からしたらきっとそつだらけで念の為確認（？）と取つてみる。

たけとやーはん反応になし

確實に兄貴は遅刻するよな・・・

「兄貴いー入るからね〜」

ゆつくりドアノブを回せばあつせつ空いた。

カーテンからすこしもれる光が兄貴のくるまる布団を照らす

「ほら兄貴起きろー！起きろー！」

むつとしたからカーテンをひとつつかみ全部開け光を入れると、兄貴にまたがつて重量をかけながらゆさる」とした

さすがの兄貴もこれには唸りを上げ、私の重量に痛みを感じたのかその重い目蓋を少し上げた。少し見せた瞳は綺麗なアイスブルーの瞳。母さんがハーフで多分その遺伝

「ほら兄貴、起きしよ。遅刻するよ?」

兄貴は目を腕でこするだけで起きる気配が無かつたので、
とりあえず一声かけるが変わった様子はない。
返事を待つ為そのままの体勢で圧力をかけながら、
「起きろ」という念を込め睨む

「あと5分」

「 - - - - - 」のねむせいな

「うぬわ！？」

いきなり兄貴は私の腕を思いつゝきりひつぱると、

私の視界は一瞬にして兄貴の胸板だけになつた・・・

＝ ものの衝撃で「んな」も「な」てしまつたのだ

つてかちょ！！？？

「アーチアーチアーチアーチ！」

兄貴の馬鹿ああああ！！！新しい制服に早速皺ついたじやんか！！

「はあ？ そんなのいつかなるだろ。それが早いか遅いかだけだし」

私を抱き寄せた状態でタメ息をつきながら更に私を腕の力で閉じ込める。

「冗談、本題にして。まじで

今まで遅刻するわ

「嫌」

「嫌じやねえよ」

「キサから甘えてきたじやん」

「あのわ、あれのどこが甘えてたの？」
10文字以内で答えろや、「」

「全部」

駄目だ……

完全に寝ぼけているし、今にももう寝そうだよ。

せめてどつにかしようと兄貴の胸板を押し返そうとするが、

男の力に勝てるわけもなくすぐに疲れた

チラツと兄貴の部屋の時計を見れば8時30分前

ああ・・・本格的にやばい。

私がもう一度怒鳴ろうとした時、その衝撃な出来事が起きた

チュツ

リップ音

・・・・・・・・・リップ音?

目の前は胸板じゃなく兄貴の寝顔・・・・・

え、は?うつそ・・・・私のファーストキス・・・

「へ・・・・・

へんたいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい

バタン!

「どうしたのキサ! ? って・・・・・

こんの馬鹿皇月いいいいいい!!

お前は私の可愛い妹のキサになにしどんじゃ あああああああ

!!

「つさいなあ・・・ただのおはよつのキ

お前一回表出て面がせや！……！」

卯月姉は何やら御乱心と化し、おたまを持つていなしの手で兄貴の首を猫のようにひつつかみベットから引きずり落とした

エダンツ

案の定、冗費は画面から落下

驚いた様子で力が抜けた為和はその隙を一瞬勝出

「馬鹿はてめええええた!!!!!!

ああ・・・また始まつてしまつた。

兄貴 V.S 卵月姉

なんでこの二人はこうも口が悪いのかなあ・・・

学校からはD▽被害だと思われたらどうすんだ！？」「

「なーにがロバ被害だ、このシステム。
つか自分で綺麗言つた、変態ナルシスト」

この一言でまた兄貴がぶちぎれて取つ組み合いとなり、
私が仲裁に入るけどしばらくやまず・・・
喧嘩が終わつたのは8時50分だった。

これが黒沢家の1日の始まりである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4125ba/>

私は貴方の妹なんです

2012年1月10日22時50分発行